

後世方派の刊行著作数について

山田 恵美

日本鍼灸研究会

【緒言】 後世方派とは、金元明医学に依拠し、江戸前期から中期にかけて活躍した医家達のこと、室町後期の曲直瀬道三（1507-1594、以下、道三と略す）をもってその嚆矢とする。後世方派は江戸期前半の医学の主流であり、また肯定されるにせよ、否定されるにせよ、江戸期医学の枠組みを形成した学派であるにも関わらず、江戸期後半の古方派ほど評価も論評もされていないように見え、その全体像も分明ではない。よって本発表では後世方派研究の前段階として、先ずその刊行された著作数を調査し、年代別、著者別、及び医書と医書以外の著作（以下その他と略す）に分類し、その数の推移からみえる後世方派の変遷を概観した。

【門人及びその著作】 道三直属の門人は曲直瀬玄朔（[1549-1631]以下玄朔と略す）、正純（1559-1605）、養安院正琳（1565-1611）、寿徳院玄由（生没年未詳）、秦宗巴（1550-1607）、施薬院全宗（生没年未詳）である。彼等に続く門人は約70人（『近世漢方医学史』、31頁）おり、著作の刊行が確認されるのは30人、397部（医書299部、その他の著書98部）である。以下、門人の著作数を刊行年代別に列記する。

1561-1610年 玄朔：12部（医書）。正純：1部（医書）。計13部（医書）

1611-1660年 玄朔：10部（医書）。野間三竹（1608-1676）：6部（医書1部、その他5部）。堀杏庵（1585-1642）：6部（その他）。岡本玄治（1578-1645）：4部（医書）。玄由：4部（医書）。就安斎玄幽（1580-1650）：2部（医書）。玄淵（1636-1686）：1部（医書）。中江玄昌（生没年未詳）：1部（医書）。中山三柳（1614-1684）：1部（その他）。奈須恒昌（1593-1679）：1部（医書）。饗庭東庵（1615-1673）：1部（医書）。山脇玄心（1594-1678）：1部（医書）。古林見宜（1579-1657）：1部（医書）。計39部（医書：27、その他：12）。

1661-1710年：岡本一抱（1654-1716）：26部（医書25部、その他1部）。野間三竹：11部（医書2部、その他9部）。玄朔：9部（医書）。古林見宜：10部（医書）。中山三柳：6部（医書3部、その他3部）。岡本玄治：4部（医書）。玄淵：4部（医書）。竹中通庵（生没年未詳）：3部（医書）。長沢道寿（?-1637）2部（医書）。饗庭東庵：2部（医書）。玄鑑（1577-1626）：1部（医書）。堀元厚（1686-1754）：1部（医書）。山脇玄修（1654-1727）：1部（医書）。就安斎玄幽：1部（医書）。谷村玄仙（生没年未詳）：1部（医書）。計82部（医書：69、その他：13）。

1711-1760年：岡本一抱：16部（医書14部、その他2部）。堀元厚：8部（医書）。小川朔庵（生没年未詳）：3部（医書）。玄淵：2部（医書）。竹中通庵：2部（医書）。味岡三伯（1629-1698）：2部（医書）。長沢道寿：1部（医書）。中山三柳：1部（医書）。岡本玄治：1部（医書）。門間嘉寛（生没年未詳）：1部（医書）。山脇玄心（1594-1678）：1部（医書）。堀杏庵：1部（その他）。正珪（1686-1746）：1部（その他）。計40部（医書：36、その他：4）。

1761-1810年：岡本一抱：3部（医書）。長沢道寿：1部（医書）。岡本玄治：1部（医書）。北尾春圃（1658-1741）：1部（医書）。味岡三伯：1部（医書）。正珪：1部（その他）。計8部（医書：7、その他：1）。

刊行年代不明：210部（医書：142、その他：68）。

【結語】 1661-1710年の間に刊行された著作が最も多く、それ以降、刊行著作数は徐々に減り始め、1720年代以降は古方派の台頭が始まり、1761年以降、減少が顕著となる。こうした刊行著作数の変遷から、後世方派の興亡をうかがうことができる。